

兵庫県立篠山産業高等学校 東雲校

平成19年度 学校設定科目「日本の文化」1年間の授業展開

主幹教諭 上神善太郎

《1学期》

① 4月12日・19日・26日 3回 5時間 オリエンテーション・「日本の仏教史」

日本の仏教文化の成立過程を学び、仏教についての基礎知識を得るとともに、自分の家の宗派について関心を持つ。

前半 古代～平安初期を説明する。

後半 平安末期～明治を説明する。

② 5月10日 1回 2時間 郷土史「丹波ぶらり散歩道」から 丹波を知る。

丹波地域の説話や逸話、遺跡、史跡や伝承について、プリントを用いて学習する。

自分の生まれ育った地域を紹介する。紹介文を作成する。

③ 6月1日 1回 2時間 「丹波焼」についての基礎知識を得る。

「丹波焼」の歴史、「丹波焼」の特徴、「丹波焼」の製法、

「丹波焼」の創業と起源、「丹波焼」の装飾と文様などをプリントで学習する。

④ 6月7日～28日 4回 8時間 「陶芸」を体験する。

丹波の伝統工芸である「丹波焼」（立杭焼）を体験し、丹波焼の魅力を感じ、郷土愛を深める。

講師 田中 茂 先生（丹水窯）

作品 2～3種類製作 湯飲み、皿等

篠山産業本校で素焼き、釉薬を塗り、登り窯で焼く。

福住祭（11/11）で作品展示

⑤ 7月12日 1回 2時間 陶芸学習を終えて

「陶芸学習を振り返って」感想文を作成する。また、講師の先生へのお礼状を作成する。

《2学期》

① 9月6日～10月4日 4回 8時間 「狂言」を体験する。

（9月14日 学校指導訪問）

日本の伝統芸能である狂言を体験し、狂言の魅力を感じる。

講師 山口 耕道 先生（大蔵流狂言師）

演目 「癡痢」（しびり）

福住祭（11/11）の舞台上で演じる。

② 9月27日 1回 2時間 「狂言の練習」

③ 10月11日～11月8日 4回 8時間 「茶道」を体験する。

日本の伝統文化である茶道を体験し、茶道のもつ奥深い魅力を感じる。

講師 山口 浩子 先生（裏千家）

④ 10月15日（中間考査中） 1回 1時間 狂言学習を終えて

「狂言学習を振り返って」感想文を作成する。また、講師の先生へのお礼状を作成する。

⑤ 11月15日 1回 2時間 茶道学習を終えて

「茶道学習を振り返って」感想文を作成する。また、講師の先生へのお礼状を作成する。

⑥ 11月22日・29日 2回 4時間 「篠山」を知ろう

篠山市立図書館から篠山の歴史・文化の紹介ビデオを借り、ビデオ鑑賞を行う。
篠山の文化、歴史、民話などについて調べ、レポートを作成する。

⑦ 12月14日 1回 1時間 日本の年中行事を学習する。

(「日本の文化」冊子資料使用)

ワークシートを用い、年中行事の持つ意味を考える。特に正月について、年賀状、お年玉の意味を考える。

冬休みの課題 百人一首を覚える。

《3学期》

① 1月10日 1回 2時間 百人一首大会を行う。(2回)

② 1月17日・24日 2回 4時間 「郷土史」を学ぶ。

篠山の歴史を学び、町の豊かな文化財保護の意識を高め、郷土愛の心を養う。

講師 大路 靖 先生 (郷土史家)

内容

① 篠山の古代史について(古墳が物語るもの)

② 篠山城について(城のもつ意味)

③ 1月29日 1回 1時間 郷土史学習を終えて

「郷土史学習を振り返って」感想文を作成する。また、講師の先生へのお礼状を作成する。
また、「1年間の学習を振り返って」感想文を書く。

《生徒の感想文》

日本の文化「陶芸学習」を振り返って

○陶芸をやっていくうちに、みんな真剣になって集中して作品を造っていたと思います。最初は難しく、うまく形にならなかったけれど、何とかそれらしい形になって良かったと思います。作品を造っていくうちに、だんだん楽しくなってきて、早く来週にならないかなと思うようになりました。今回の陶芸を通して、多くのことを学んだように思います。とてもいい充実した時間だったと思います。

○初めての陶芸だったので、実際にしてみてもすごく楽しかったです。器の中をきれいにするのが難しかったです。何回も爪で土をひっかいてしまいました。でも、集中して最後まできれいに造れて良かったと思います。器の裏を仕上げるのに、土を削った時、薄くなったり分厚くなったりしないように削るのが大変でした。中もどのくらい削ったらいいのか分からなかったけど、田中先生に中の削り方を教えてもらって、力強く道具を上手に使い、斜めに削っていくのが難しかったけど、コツをつかんでうまく出来るようになったので良かったです。

○一つ一つ丁寧に教えていただき、自分が納得できる作品を造ることが出来ました。焼き上がりがとても楽しみです。何度か土を取りすぎたりして、先生に直していただいたり、いろいろとアドバイスしていただきました。自分の好みの作品を造るのに、どうしたら良いか聞いたら、しっかりと指導してくださり本当に良かったです。「土は心を込めて触ると、言うことを聞いてくれる」というのは、本当だと思います。自分の中で、イライラとした気持ちで、土をこねたり形を作っても、自分の思い通りに行かないし、納得できる作品が出来ないと思います。陶芸に限らず、全部に当てはまることだと思います。

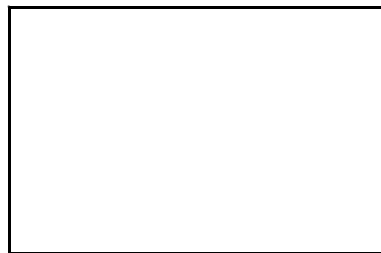
日本の文化「狂言学習」を振り返って

- 初めは、緊張や戸惑いで声がでなかったけど、だんだんと緊張がなくなってきた、声も出るようになったし、前を向けるようになりました。演技をしてみたら「しびり」というものはどういうものかが分かりました。でもやってみると、演技はとても難しくて、歩き方や座り方などが、なかなか出来ませんでした。山口先生に教えてもらいながら、ちょっとずつ出来るようになったと思います。少しでも出来るようになると楽しく感じる事が出来ました。とても良い勉強が出来たと思います。
- 授業が始まってすぐに、発声の仕方を教えていただきました。背筋を伸ばして頭のとっぺんから糸が出て、それが引っ張られているようなイメージで姿勢を正すと教わりました。声は腹の底から出して！と言われました。自分が普段出している声は、腹の底から出していないので、実際やってみるととてもしんどかったです。でも、自分じゃないような声が出て少し驚きました。「しびり」をやっていく中で、少しずつ意味も理解できるようになりました。自分がその役になりきることで、意味が分かってくるんだと思いました。体育館で「しびり」をやっていると、今まで狭い部屋では大きく聞こえていた声がとても小さく聞こえました。とても大きな声を出さない！といつしか思うようになりました。今までは恥ずかしさが先にたって、なかなか大きな声が出ませんでした。けれど、演技していく中で、大きい声を出すことがこんなにすっきり気持ちの良いことだったなんて知りませんでした。
- 最初は「しびり」の内容がよく分からないまま見ていました。でも、現代語に直して、内容も理解してから見たら、面白かったし、狂言という楽しみが伝わって来ました。私は大きな声を出すのが苦手なので、舞台上で練習した時は、すごく緊張したし、昔の言葉が難しくて、言いにくかったところもあって、かんでしまいとても苦労しました。山口先生が「声が小さくても、大きくても、相手に伝える意識が大切」って言っていたので、福住祭で発表する時は、このことを忘れず、練習の時でもしっかり覚えて、大きな声が出せるように発表に向けて頑張りたいと思います。発表当日になった時、上がってしまって台詞を忘れそうで怖いですが、でも、頑張って練習したいと思います。山口先生、狂言を教えていただきありがとうございました。狂言の楽しさがだんだん分かってきて、「しびり」という物語が好きになりました。自信を持って発表できるよう頑張って練習したいと思います。

日本の文化「茶道学習」を振り返って

- 2年生の時に、生活教養でお茶を点てたり、基礎的な勉強をしたことがあったので、今回、日本の文化でまた茶道ができてとても楽しかったです。家でお茶を点てたりできないので、やり方を忘れてしまっている部分もありましたが、山口先生に丁寧に教えていただいて、思い出することができました。毎回、掛け軸やお香を持ってきたら、より本物に近いお茶を体験することができました。また、初めて炉で湯を沸かしてお茶を点てました。電気とはまた違い、実際にお茶会に参加しているような感じでした。花も先生が季節に合ったものを持ってきたり下さって、毎回どんな花を飾っているのか見るのが楽しみでした。日常では、茶道はほとんど使いませんが、茶道をすることにより落ち着きや何事にも感謝する、お客さんをもてなすという気持ちを学ぶことができたと思います。普通生活している中では、こういうことは学べないけど、茶道を通してたくさんを学べました。
- 初めて茶道をやって、最初はとても難しく思った。茶室の入り方や入ってからの動きなど、想像していたことより、内容が深くとても難しかった。お茶も初めて飲んで、とても苦く全部飲むのが大変だった。また、部屋に飾ってあるものが、日に日に変わっていて、茶道は奥が深いと改めて思った。あまり正座をする機会がないから、足のしびれを我慢するのが辛く大変だった。でも、何度もやっていくうちに、そういうことにも慣れ、少し茶道を楽しめるようになったと思う。

- 茶道を学んでとても楽しかったです。2年生の時に茶道を学んでいたけど、また違う形のやり方をして、いい体験ができて良かったと思いました。11月になると、畳に穴が開いている所でお茶を点てて、すごいなと思いました。茶道は礼儀が正しく、私は正座に慣れていないので、短時間でも正座をするのがきつかったです。お菓子が甘くて、美味しかったです。苦いお茶を飲んでも、口の中に甘さがまだ残っていて、ちょうどいい甘さになるので、美味しかったです。先生のお手前を見ていると、お湯の沸いた音や、お茶を点てる音など、音で楽しむたりできるので「自然でいいな」と思いました。一人ずつお茶を点てられなくて残念でした。しかし、裏方でお茶を点てて、ちゃんとお茶が点てられるか、苦くないかすごく心配でした。相手にお茶を出すときに、あいさつや1回お椀を回したり、細かなところがあり、茶道は難しいなと思いました。



日本の文化「郷土史学習」を振り返って

- 4時間という短い間、大路先生に郷土史を教えてもらい、とてもよい勉強になりました。篠山に住んでいても、全く知らないことがあったし、篠山に古墳が何個もあるとは知りませんでした。私は、古墳は日本に少ししかないと思っていたのですが、大路先生の話を聞くと、たくさん篠山にあることを知りとても驚きました。そして、古墳の中の絵を見せてもらったり、古墳の中にあつた土器などを見せてもらいました。土器は思っていたよりも結構頑丈でした。でも、何に使うかわからない土器もあって、その説明を聞いたら、昔の人はすごく工夫をしていたりして、すごく頭が良いんだなと思いました。また、篠山城の石を積んでいく時、石が盗まれないように印を彫ったりしているなどの工夫をしていたのも聞きました。それと篠山城の周りに神社を作り、篠山城を攻めにくくすることなど、たくさんのお話を聞きすごく勉強になり、自分が住んでいる篠山のことが知れて良かったです。
- 自分は、篠山育ちなので、お城のことや高城山のことをいっておられたとき、そんなこともあったんだと思って、大変勉強になりました。お城では内堀や外堀があったなんて知りませんでした。そして、いっぱい積んであるあの石に×や△などが書いてあることも、先生に教えてもらって気づきました。高城山の話は、八上小学校時いろいろなことを教わりましたが、今回知らないことをたくさん学べたので良かったです。古墳の中にあつた昔のお皿などをさわらせてもらい、いろいろと学習できて楽しかったです。

